

雪がた

—— 豊科病院だより ——



豊科病院広報誌 第4号
平成18年 11月 1日 発行
発行者 豊科病院広報文化委員会
〒399-8205
長野県安曇野市豊科5777-1
URL <http://shironishi.or.jp/to/01/htm>

豊科病院の理念

自他を問わず人間を愛し、慈しむ心を礎に、病める人、障害を持つ人、悩める人に常に自分の家族に接するように優しく接し、最良の医療・福祉サービスを提供し、地域の人々の要求及び個別的要求にも応え、地域で人々が快適に生活できるような支援を行う。

豊科病院 文化祭開催

高校時代の楽しい思い出として、「文化祭」を連想する方は多いと思います。生徒達が主体となり、みんなで企画を盛り上げ、そしてやり遂げた・・・清々しい思い出です。

当院でも、そんなやりがいのある、楽しい行事を行おうと、今年から新たに文化祭を開催することに致しました。もちろん患者様が主体となって、みんなで練習をし、様々な発表を行います。

さらに、この文化祭が患者様と職員が触れ合う良い機会にもなり、また、発表を通じて新たな能力や、可能性を知ることにも繋がります。

文化祭は7月22日、当院にて盛大に開催されました。職員からは作業療法部が中心となり、この日の為に患者様と一緒に準備をしてきました。当日は司会進行と、発表のお手伝いを行います。

メイン会場にはステージが設けられ、各病棟の発表等が行われます。展示会場も別に設けられて、写真やピアス細工、編み物、習字等の個人の作品や、ティケアで製作した作品など、様々な個性溢れる作品が、所狭しと展示されました。

ステージでは、農作業実習を行ったグループが一年余りに渡る活動の発表を行いました。グループの一人一人が、それぞれの目的や希望を抱きつつ始めた農作業ですが、やがて「作物を作る喜び」という共通の目的に向かって、メンバー全員が進んでいく様子が良く分かり、また、実際に収穫された野菜が持ち込まれると、会場は拍手に包まれました。

続いて各病棟の発表です。得意のカラオケで十八番を披露する方もいれば、振り付けから衣装まで、凝りに凝った演出で観客を沸かす方・・・会場は大いに盛り上がりました。

そして締めくくりには、メロディーベルの登場です。参加者が各音程のベルを鳴らし分けることにより、曲を奏でます。メンバーはこの日のために一ヶ月前から練習を重ねてきたとのこと、思わず聞き惚れてしまうほど、その出来栄は素晴らしいものでした。

休憩時間には「身体性プログラム」体験として、作業療法士がステージに上がり音楽に合わせて軽いダンスや、手足を動かす体操を、観客の皆さんと一緒にやって行いました。

身体性プログラムにはストレッチや、生活力力の向上、心身の健康を助ける効果があり、これは現在も継続して行われています。

その後文化祭は楽しく進行し、いよいよ最後のプログラムは童謡「ふるさと」。全員で合唱して会場が一つになったところで、惜しまれつつも閉会となりました。

当院にとって文化祭は初めての催しでしたが、演る側も、そして観る側も非常に盛り上がり、会場の雰囲気は明るく和気藹々としていました。初回としては上々の出来だったのではないのでしょうか。そして何より、患者様みんなで成し得た喜びが、やがて自信に繋がっていくような、そんな思いがしました。



みんなで身体性プログラムを体験中です

季節の献立く実りの秋を迎えて

秋もいよいよ深まり、食卓には様々な秋の味が彩りを飾ります。当院の食事療養部では、入院中の患者様に旬の味覚を楽しんでいただくために、秋の献立を企画しました。その一部を紹介いたします。

まずご紹介するのは栗おこわ。うるち米ともち米をおよそ6対4の割合にし、お釜へ出し汁にしょうゆ・塩・お酒を加えて水の量は普段より約1割増しにし、最後に栗を入れて炊き上げます。すると、栗の上品な風味が加わった美味しいおこわに仕上がります。患者様にとっても好評でした。

また、お粥食の方には、お粥の上に刻んだ栗を乗せてお出しし、風味を楽しんでいただきます。

その他にも、きのこご飯やサンマの塩焼き（大根おろし添え）など、秋の定番メニューが献立を賑わせています。

信州の秋は短く、山はまたたく間に白くなっています。これからまた長い冬がやって来ますが、美味しいものをたくさん食べて、今年も元気に冬を乗り切りたいですね。



新人さんからの お便り

作業療法部 松枝 ゆい

豊科病院に就職してから、早いものでもう半年が過ぎました。毎日患者様と接している時間はとても楽しく「今日はありがとう」「楽しかったよ」という言葉は、何より嬉しかったです。

元気の素です。

この半年間は、短くても色々なことがありました。数ヶ月前、初めて担当した患者様が退院される時、次に行く施設の職員さんに「豊科病院では色々作ったり、畑をやって楽しい」と話して下さったことがありました。私は、その患者様に向けて行ったプログラムのことを褒められた気分になり、浮かれていましたが、先輩の作業療法士から、「病院が楽しいだけの場所になっちゃったんだね」と一言・・・。

そこでようやく「ハッ」としました。

私達の仕事は、患者様の目を外へ向けていく「お手伝いをしていく」ことが大切なのです。

そして先輩は「私達は、患者様を社会へ導く潤滑油にならなくっちゃ。決して接着剤になっちゃいけないのよ」と教えて下さいました。

病院生活から退院へと向かう、その人に合わせた目的と、それに伴うプログラム。

リハビリテーションに携わる、作業療法士の視点を見失いかけた出来事でした。

これからも悩んだり、壁に突き当たることがあると思いますが、患者様に対して何が出来る、何が必要なのか日々考えながら頑張っていきたいと思えます。まだまだ至らない点ばかりですが、多くの方に迷惑をおかけすると思いますが、ご指導のほど宜しくお願いします。

作業療法部 内山 恵理

豊科病院に就職して、早いもので半年が経ちました。半年前までは学生だったわけですが、新しい土地での生活は毎日が新鮮で、社会人として学ぶことがたくさんあります。今はまだ業務に追われる日々が続いていますが、毎日の患者様の笑顔、豊科病院スタッフの皆様の暖かさ支えられながら頑張っています。また、

そんな皆様との出会いを大切に、一日一日を過ごしていきたいと思えます。

作業療法士として、患者様のために自分は何が出来なのか？今、自分が行っていることは本当に正しいのか？初心忘れず、日々自分自身を見つめ直しながら、たくさんの方を学んでいきたいと思えます。そして豊科病院の一員として責任と自覚を持ち、頑張っていきたいと思えます。

今後共、ご指導のほど宜しくお願いします。



フライフィッシング

食事療養部 渡邊 政嗣

私の趣味の一つに、釣りがあります。釣りといっても色々な種類がありますが、私が好んで行うのはフライフィッシングです。

フライフィッシングとは、生餌を使わずに魚が捕食している水生昆虫等に似せた疑似餌（毛ばり）を使う釣りのことです。ターゲットとなる魚は水生昆虫を捕食するサケ・マス・イワナなどですが、私の釣りの舞台は溪流。狙う魚はイワナやヤマメです。

自然を相手にするため、天候や川のコンディション、魚の活性等により、思うような釣果が得られないこともしばしばあります。加えて餌が偽物なので、本物の餌に敵わない時もあります。魚を釣り上げることを目標とすれば、釣果が

得られなければ面白くないのかもしれませんが。しかし、この釣りの魅力は何と云ってもその『毛ばり』を使い、如何に魚を釣り上げるか、にあるのだと思っています。どちらかというと、釣り上げるまでのプロセスを楽しむ釣りと言っても良いと思います。

フライフィッシングは、魚の居るポイントへ毛ばりを届けるためにキャストイングを繰り返して行きます。理論を知り、練習を積み重ね、なかなか思ったポイントへ毛ばりを届かせることは出来ません。

タイピングも重要です。タイピングとは、フライ作り（毛ばりのことをフライといいます）のことです。釣り針に鳥の羽や、ナイロンの糸などを様々な手法を使って巻き付けて、水生昆虫の形にしていきます。バランス良く仕上げないと、見てくれも悪い上に、水の中で不自然な動きをしてしまつので、魚にとって魅力的なものにはなりません。細かい作業でもあり、初めの内はなかなか思い通りのものを作ることが出来ずにはなりました。見よう見まねで、数をこなす内に何とか形になってきます。もちろんフライは店で買ってもいいのですが、自分で巻いた（作った）フライで魚を釣った時の喜びは、何物にも代えがたいものがあります。

きれいな空気、緑の匂いを感じながら清流に立つ・・・。水の中の地形や流れを読み、自分の思うポイントへキャストする・・・。すると魚が私の思惑通りフライに誘われ、岩陰から出てきてフライに飛びつく・・・。釣り上げた魚の美しさに思わず見とれる・・・。こんなシチュエーションは非日常的で、エキサイティング。まさに、全ての過程において「命の洗濯」をすることが出来るのです。

これこそが、私の心の癒しです。皆さんは釣りをしたことがありますか？是非一度、経験してみてください。



豊科病院院長 関 東和先生が、十月七日に亡くなりました。

十一月五日、安曇野サンモリッツに於いて合葬が執り行われ、多数の関係者の方々にご参列いただき、院長先生と最後のお別れを致しました。

ご参列下さった方々に、心からお礼申し上げます。

内科で関院長先生が診て下さる時はいつも「冷たくないように」と、胸に聴診器を当てる際に手で温めてから当ててくれたことを思い出します。

細やかで、本当に温かい方でした。

心よりご冥福をお祈り致します。



ご参列下さった方々に心からお礼申し上げます

内科外来 医師担当表

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	信州大学 第一内科	休 診	休 診	信州大学 第一内科	信州大学 第一内科	休 診
午後	休 診	休 診	休 診	休 診	休 診	休 診

◎受付時間 午前8時～午前11時30分
◎診療時間 午前9時～正午

※ 日祝祭日は休診となります
※ 火・水・土曜日は 休診とさせていただきます

精神科外来 医師担当表

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	中澤 知遠 医師	西里 吉昭 医師	五味渚 満徳 医師	第1・第3・第5週 五味渚 満徳 医師 第2・第4週 中澤 知遠 医師	中澤 知遠 医師	五味渚 満徳 医師

◎受付時間 午前8時～午前12時
◎診療時間 午前9時～終了まで

※ 日祝祭日は休診となります

平成18年 11月現在



～・編集後記・～

豊科病院広報誌「雪がた」第4号をお届けしました。お読みになっていかがでしたでしょうか？
前号から、今号発行までの期間が長く空いてしまったことをお詫び致します。

空はどこまでも高く、澄みきって、外に出たら思わず深呼吸したくなる・・・そんな季節になりました。安曇野は益々秋の色を濃くし、これから迎える長い冬の準備をしているように見えます。
そんな折、当病院長の関 東和先生がお亡くなりになるという、非常に悲しい出来事がありました。
仕事は丁寧で的確、人柄は気さくで温かい、まさに当院にとって無くてはならない方でした。
いつもいつも頑張っておられましたが、疲れを顔に出さず、患者様への気遣いを忘れない・・・そんな姿を思い出す度、身が引き締まる思いです。
これからもその姿を忘れずに、仕事をしていこうと思います。

※表題「雪がた」について 春から夏にかけて北アルプスでは様々な雪形が見られ、当院からは常念岳の常念坊や、蝶ヶ岳の蝶などの雪形を正面に望むことが出来ます。雪形が季節の変化に合わせて融けるように、患者様の病も融ける・・・表題にはそんな願いが込められています。
また、表題の写真は当院屋上から撮影しました。